

スマート望遠鏡雑感

仙台駐在員 小野寺

最近、天文雑誌やネットで「スマート望遠鏡」の話題が盛り上がっているようです。安いものだと数万円で購入可能。当然ですが私は持っておりません。スマート望遠鏡の利点をあげてみると、

- ・面倒な設置作業（極軸合わせなど）が不要
- ・簡単に星雲や星団などの対象が導入可能
- ・その場で写真が撮れ、スマホなどで多くの人が同時に天体を観望可能

といった点でしょうか。写真の画像処理まで行ってくれる機種もあり、パソコンでの画像処理には及ばないものの、綺麗な天体写真が「初心者」でも撮影できるのも魅力でしょう。しかも、メジャーな天体データは内蔵されているので星図すらも不要。こうなると、ちょっと天文に興味を持ち始めた初心者の方や、新しい物好きの人には魅力的だと思うのですが・・・が、個人的には利点よりも害が大きい様感じてしまいます。以下は、あくまで個人の意見ですので、その点はご理解下さい。もしかすると、私が「時代遅れの高齢者」なのかも知れませんし。

最大の問題点は、天文の勉強をしない天文ファン（天体写真ファン？）が出てくる事でしょう。星図すら持たず、スマホに指示すれば簡単に天体が導入できるので、星図の知識も不要。スマホの操作さえ出来れば天文アマチュアの仲間入りなのです。実は、ひたすらデジタル写真の撮影機材に資金を投入し、高度な画像処理技術をマスターしても、カニ星雲 M1 の中心にあるパルサーの事も知らない。そんな人が本当にいるのです。何かがおかしいと思うのは私だけでしょうか？もちろん「楽しければそれで良い、たかが趣味でしょ？」という考え方もあります。スマホだって PC だって地デジだって、その原理をいちいち勉強する人なんていないのですから。でもですよ・・・

天体観望会や自宅の庭で「明るく光る液晶画面の宇宙」に喜ぶ風景っておかしいと思いませんか？見ているのは実際の「宇宙」ではなく「データ」なのです。実際、仙台で加入している同好会でも SeestarS50 を購入しているのですが、眼視観望用望遠鏡と併用の観望会とはいえ、色が綺麗に出ている液晶画面で喜ぶのは何か違和感があります。だったら、わざわざ観望会に来なくても暖かい部屋（or エアコンの効いた蚊のいない涼しい部屋）で NASA のサイトの素晴らしい写真を鑑賞した方が良いなあ、と個人的には思ってしまうのです。勿論、本当の宇宙に興味を持つ人も出て来るかも知れませんが、飽きてしまった人のスマート望遠鏡が中古市場に出回る可能性も有りそうです。

先日、変光星観測の合間に「スマートじゃない小口径屈折望遠鏡」で見たオリオン大星雲のガスの中で輝くトラベジウムは美しかったです。観望の楽しみって、やはり実際に目で見る事だと感じた夜でした。勿論、写真より「絶望的に貧弱」な見え方ですけど。